

選挙の開票事務に関する視察について 岡崎市選挙管理委員会視察

平成 25 年 8 月 9 日 町田市議会 志政クラブ 吉田つとむ

選挙管理の課題では、岡崎市は人口が約 38 万人、議員数 37 名、立候補者数 46 名、投票率が 57.81%とすることで、全体を比較すると、町田市とは投票者数で極めて近い数字を示していることが特徴です。

選挙の事務作業の特徴で、まず投票では期日前投票所で土足入場ができるように心がけていることがありましたが、町田市では地域センターの会議室などで実施しており、そのことは前提に設定されているものと考えます。

また、若年者の投票率アップ活動では、学生による、地元 FM 局（FM おかざき）への CM 出演、番組出演がありました。町田市においてはケーブル TV において同様な方法があるでしょう。

開票事務において、市長・市議選が同時に行われており、やはり市長選の開票が先に進み、市議選の結果が後に出る状態でした。ちなみに、前回は市長選挙に複数の県議が事前に辞職して立候補したことで、県議補選も同時に行われ、トリプル選挙になったとのことでした。町田市でもこうした事態は無いとは言えない事例かもしれません。

開票作業において、投票用紙の読み取り分類機を 12 台導入したとありました。投票用紙の文字を絵の形に読み取るものですが、その読み取り精度が 8 割とされていることで、人力と共用した方法が必要とされていました。

今まで町田市において導入したと言う経緯を聞いておらず、改めて機関に確認してみたいと思います。

なお、開票の時間短縮に関して、私は以前から電子投票（投票行為を電子投票機で行い、記録媒体にそれをフッシャルして記録する方法。その記録媒体を開票所に持ち寄り、順次パソコンで読み取り、一斉にその得票数を表示する方法。開票作業が極めて短時間で行われ、なおかつ、手描き投票が無いことで疑問票が一切存在しない原理になっている）に関心を持ってきました。その多くの事例を全国でリアルに見てきました。

その実施進展課程で、一つの自治体で用いた特定メーカーの機種が選挙の投票中にストップする事故（複数の投票機の投票記録を少ないサーバーで保存する方式を採用し、その

サーバーが過熱してパンクした事件。その際、少なからぬ人が投票を断念して、投票できなかったことで、選挙無効を訴える裁判となり、選挙無効の判決となった事件) を起こし、それ以降、電子投票全体に欠陥があるかのように日本では受け止められていまし、大半の自治体が元の手書き方式に戻ってしまう事態になっています。

世界的にはさまざまな投票方式がありますが、すでに電子投票が実施される国が増えている中、日本はあくまで「手書き」を前提にしており、あくまで投票用紙の文字を人が読み込んで判断することで疑問票の処理方法で恣意的な分野を残しています。

合わせて、こうしたことが電子先進国に対して、電子化の波にも遅れる事態が他の分野でも波及していることを懸念するものです。